

# 水田の貯留機能向上活動

## 福岡県朝倉市における活動組織の例

- 本地域の下流域には、○○地区、○○地区、○○地区といった市内でも比較的人口が多い地域が連なっていることから、本組織の取り組みは他地域への影響が大きい。
- 本活動取り組み開始以降、この地域及び下流域においては現在まで大きな洪水・氾濫等は発生しておらず、また地域全体の防災意識の醸成にも繋がっている。

### 【地区概要】

- ・取組面積17.4ha(田17ha、畑0.4ha)
- ・資源量 開水路7km、農道9.9km

- ・主な構成員 農業者、水利組合、老人クラブ

### ・活動内容

農地維持支払  
資源向上支払(共同)

## 取組みへの経緯

- 以前は個々の事業者の判断によって、通常の排水管理により水田が管理されていたが、平成24年の九州北部豪雨により、本市においても甚大な被害が発生したことから、地域全体において防災・治水に対する機運が一層高まった。
- また、同時期にほ場整備が実施されたため、多面的機能支払交付金事業とほ場整備を一体的に考えて取組むことにより、より効果的な事業活動が図られると考えた。



## 取組内容

- 組織全体の水田において、排水口に止水板・排水調整板等を設置し、排水制限・調整を行うことにより、水田に雨水を貯留させ、洪水・氾濫被害等の緩和を図る。実際の水量調整については個々の事業者により対応した。また、その活動を広報誌で広めることにより、本活動への更なる参加者を募っている。
- 水田に普段より多くの水を張ることによって、台風や暴風時の強風による稲の倒伏防止の効果もあることから、重ねて効果が期待できる。
- 一律ではないものの、各水田がおおむね10cm程度の水量の嵩上調整を実施している。組織の水田面積が約17haであるため、約17,000tの水量が本組織によって一時的に貯留されていることになる。



【現地確認後、各事業者により水量調整を実施】

